

# そよかぜだより

第59号  
発行 2007.4.15  
毎月1回発行  
NPO法人  
障害者団体連絡会  
そよかぜ

http://www.mmjp.or.jp/soyokaze/  
連絡先  
ひばり園 578-0855  
FAX 578-0466  
くれよん 578-2575  
つくしの家 578-0855  
あおぞら 570-6110  
(お問い合わせ)  
資源回収時のご連絡は「ひばり園」へ

## 「精神障害者退院支援施設」 四月から施行

### 障害者団体は納得せず

障害者自立支援法に基づく「精神障害者退院支援施設」が今年の四月から施行されました。この施設は、厚労省が昨年十月から施行する予定でしたが、当事者や障害者団体が強く反対したために施行を延期していたものです。厚労省からこの施設案が示されて以降、昨年の八月から関係団体との話し合いや協議は続いていましたが、今日まで納得が得られないまま施行されることになりました。このように大きな意見の食い違いが生じた背景には、わが国の障害者福祉の中でも取り分け精神障害者の福祉が遅れていたことがあるといわれています。今から二年ほど前に厚労省

は「全国の精神科病院に長期入院している社会的入院患者の中から7万人を、今後5年以内に退院させる」と発表しました。7万人という数の多さと、具体的な数値をあげての発表で、厚労省の「やる気」を示したものととして話題になりました。厚労省がこれほど熱を入れるには理由がありました。わが国の精神科病院には社会的入院患者が多すぎると前から指摘されてきました。社会的入院患者とは、病気の症状は入院を要するほど重くはないのに地域に受け皿がないために退院できない人達のことです。その割合が諸外国に比べてあまりにも多く、わが国の精神障害者福祉の後進性を示

すものとしてWHO(世界保健機構)などから指摘され経済大国日本の泣き所でした。厚労省がメンツをかけて発表した「7万人の退院」でしたが、現実には厳しいものでした。地域の中に精神障害者のグループホームを作るのも、社会の偏見などもあつてなかなか進みません。そこで出てきたのがこの「退院支援施設」です。いま患者が入院している病棟を病院ではなく福祉施設とすれば、中で生活している人は患者ではなく福祉の利用者となり退院したことになるという案です。これには障害者団体が「看板を架け替えただけのごまかしだ」と猛反発しました。厚労省は「長期入院している人が医療の場から福祉の場へ移ることで、病棟を離れて外部の福祉サービスを利用することが可能となり、地域生活に向けた訓練や経験を積むこと

ができる」と説明しています。地域移行の途中段階では、まずできることから第一歩を踏み出さなければならぬといえます。団体側は「病院の敷地内に障害者を閉じ込めてしまふ」と納得しません。どちらにも一理ありますが今後、結果はどう出るでしょうか。

ご協力ありがとうございました。 3月の募金 43,657円

(順不同) 18年4月～19年3月の合計 575,924円

- |        |   |        |   |             |   |
|--------|---|--------|---|-------------|---|
| とまと美容室 | 様 | 帯刀 進   | 様 | 北野 浩美       | 様 |
| 加部 妙子  | 様 | 村野 理子  | 様 | 田中 明子       | 様 |
| 山下 暉枝  | 様 | 大内 たま子 | 様 | 小林 有子       | 様 |
| エイ・アイ  | 様 | 久松 国夫  | 様 | 川崎 利男       | 様 |
| 佐藤 佐夫  | 様 | 宇津木 牧夫 | 様 | 山田 隆章       | 様 |
| 濱野 岬   | 様 | 古沢 奈保美 | 様 | 関村 理        | 様 |
| 高橋 典子  | 様 | 井上 誠一  | 様 | 関村 英希       | 様 |
| 森田 勝   | 様 | 大野 元雄  | 様 | 渡辺 四郎       | 様 |
| 榎本 正代  | 様 | 清水 キヨ子 | 様 | 長谷川 キヌ子     | 様 |
| 松岡 竹子  | 様 | 尾又 恭子  | 様 | 関谷 孝子       | 様 |
| 角野 克子  | 様 | 角野 進   | 様 | 本間 正彦       | 様 |
| 石堂 孝一  | 様 | 清水 賢   | 様 | 田中 稔        | 様 |
| 天満 喜代子 | 様 | 清水 知子  | 様 | 第一 住宅       | 様 |
| 袴田 実   | 様 | 斉藤 忠   | 様 | 関谷 達夫       | 様 |
| 平野 喜子  | 様 | 山崎 六雄  | 様 | 関谷 和子       | 様 |
| 下田 コウ  | 様 | 小沢 達子  | 様 | 永岡 智恵子      | 様 |
| 柴田 佳代子 | 様 | 川井 幸子  | 様 | 関谷 博        | 様 |
| 竹内 照夫  | 様 | 土屋 三枝子 | 様 | 桜沢 喜作       | 様 |
| アールサロン | 様 | 山影 幸子  | 様 | アールサロンデックス  | 様 |
| 阿部 郁子  | 様 | プラナ療整院 | 様 | 匿名様(2,460円) | 様 |

ご連絡は、ひばり園へ  
羽村市五ノ神2-6-7  
042-578-0855

くれよん3月の売上げ  
942,500円でした。

羽村市内の小学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さいます。ありがとうございます。

NPO法人 そよかぜの

## 《資源回収》に

ご協力をお願いします  
新聞、雑誌、ダンボール  
(ボロは扱っていません)

この収益は「つくしの家」の運営資金などになります。  
3月は27,613tでした。金額は338,235円となりました。  
みなさまのご協力ありがとうございました。

5月は第3日曜日20日です。

大雨の場合は、次週の日曜日に順延します。

会社がほしいのは、まじめ、やる気、健康

## よく労働した手を認めてくれた

東郷温さん、自閉症の男性

東郷温（アツシ）さん、四十一歳、男性、昨年十一月からひばり園に通っています。

「答辞」

東郷さんは、今から二十二年前に葛飾区の定時制高校を卒業しました。卒業式の日、卒業生を代表して答辞を述べました。答辞の原稿を今も大事に保存していて、ひばり園に持ってきて見せてくれました。それを読んで、これは障害者のことを理解していただくために役立つよい内容だから機会をみてこの紙面で紹介したいと思いました。この度、本人とご両親に了承いただいて紹介します。障害は愛の手帳4度、自閉症です。文章は全部自力で書き、部分的な間違いをご両親や先生にチェックしてもらいました。原文は長いので一部省略しています。定時制高校の生徒は昼間働きながら夜学校に通ってきます。障害があっても必死に生きる真摯な姿を読み取っていた

ければ幸いです。

四年前の四月、僕は喜びと不安と半々の気持ちでこの南葛（都立南葛飾高校のこと）の定時制の入学式にきました。高校に入学出来たのは嬉しかったけど、また中学の時のようにいじめられるのではないかと心配でした。最初の頃は、やはりいろいろなあつて僕は保健室や職員室に避難していました。中三の三学期にすごくいじめられたので、クラスの友達こそばに出来るだけで怖くて逃げていました。「いじめ」についてホームルームで話し合いました。それから僕もクラスから逃げない努力をしました。それまでは給食も一人で食べていたけど、クラスのみんなと同じ場所で食べるようにしました。だんだんいじめられなくなりました。山崎君をはじめやさしくしてくれる友達が何人もいました。そ

して小学校や中学校の時のような差別がありませんでした。二年生になる頃にはクラスに落ち着いていられるようになりました。南葛に来て良かったと思うようになりました。（このあと四年間の学校生活で体験したいろんな行事が細かく書かれています。）

いよいよ四年になり、年が変わり、高校生活もあと二ヶ月となりました。この四年間で一番嬉しかった日は何といつても今年の二月十五日です。それは僕の就職が決まった日です。僕は中学校を卒業してすぐ作業所で働きました。一年の総合の時間に給料について話し合いがあった時、僕が「六千円です」と言ったらクラスの友達が「日給六千円か。僕にもそこを紹介してよ」と言いました。日給ではなくて月給が六千円だったのです。すごくみじめだったけど仕方がないと思いました。次にメッキの会社の実習に行きました。そこで毎日トリクレインを扱っていました。体に悪いとも知らないで暑い日も寒い日も一生けんめい働きました。体重が減ってきて、

気がついた時にはトリクレイン中毒になっていました。すぐにその会社をやめて亀戸訓練校に入学しました。先生は厳しかったけど良く教えてくれました。朝の七時には家を出て、訓練校が終わると続けて南葛に来て、家に帰ると夜の十時でした。いま思い出しても良くがんばったと思います。その後、ねじの会社で働いたけど、油アレルギーでしっしんができたのでやめました。

その後、スーパーの青果部でアルバイトをしました。が今度は健康にも良く、周りの人もいい人で、仕事も易しくて、ここで正社員になりたいと思いました。正社員じゃないと不安だからです。メッキ会社で正社員じゃなかったの、雇用保険がもらえませんでした。スーパーでたまねぎの箱を持ってぎっくり腰になった時も、アルバイトだったので労災はありませんでした。だからどうしても正社員になりたいと思いましたが、スーパーでは「欠員がないし、運転免許もないから正社員にはできない」と断られました。

それから職安通いが始まり、いくつか面接に行き、一生けんめいがんばったけど「運転免許がないとだめ」とか「営業だから無理」とかいって断られてしまいました。がっかりして風邪を引いて寝込んでしまいました。その頃、駅に求人募集が貼られていました。どうせだめだろうと思っただけど、近かったので面接に行ってみたところ、会社の人は僕の履歴書を見てから、次に内申書を見て、成績は見ずに、行動の記録を見て「まじめに良く努力すると書いてあるね。それに欠席がほとんどない」と言いました。別の人が「手を見せてごらん」と言いました。手を見せると「よく労働してきた手だ、この手なら大丈夫だ」と言いました。僕は中学を卒業してからずっと働いてきました。この手が認められたのです。それから工場を案内してくれました。僕にも出来るような仕事がいつかありました。

会社の人が「働くのに必要なことは、まじめさと、やる気と、健康だよ」と言って採用してくれました。やっと就

職が決まったのです。正社員になれるのです。雇用保険、健康保険、労災保険、厚生年金にも入れます。給料も高卒待遇でもらえます。三月四日から働きます。「四日までにLLの作業着と、26・5の靴と、帽子を用意しておくよ」と言ってくれました。僕は一生けんめいがんばるつもりです。僕はまじめさでは人に負けません。高校四年間いろいろな事がありました。楽しかったこと、うれしかったこと、つらかったこと、大変だったこと、僕ほどいろんな事を経験した生徒はいないと思います。高等学校を卒業できるのは嬉しいけど、とつても不安です。でも自分なりに一生けんめい生きていくつもりです。先生方、在校生のみなさん本当にお世話になりました。どうもありがとうございます。

一九八五年三月二日

四年三組 東郷温

（その後、東郷さんは就職した会社（株マルサン）で六年間働きましたが、不景気で工場が閉鎖され、ご両親と共にこちらに引越してきました。）